

授業概要

企業は常に成長し続けることが必要であり、そのために経営者は経営理念やビジョンを示し、戦略を策定のうえ組織内に浸透させていくことが求められる。こうした戦略を具現化するために企業は一般的に、まずは中長期および短期の計画をたて、予算を編成・執行する。管理会計は、これら戦略の具現化のために活用され、企業活動のさまざまな局面で経営者を支援し、組織構成員に影響を与えていくシステムである。

本授業ではこのような、組織内へ働きかけるマネジメント・コントロールとしての管理会計の影響システムの側面を踏まえ、管理会計の基本的な理論、伝統的な管理会計手法や応用的な枠組みを振り返ったうえで、発展的な理論としてのスループット会計、アメーバ経営、品質管理会計、環境管理会計などにも踏み込んで講義する。

授業計画

第 1 回	ガイダンス, 管理会計の基礎概念・意義, 組織形態, 財務会計との違いなど
第 2 回	管理会計のアプローチ (意思決定アプローチ, 業績管理アプローチ)
第 3 回	経営計画, 直接原価計算, CVP 分析, 利益計画
第 4 回	設備投資計画・投資意思決定, ライフサイクルコストニング(LCC), 企業予算
第 5 回	事業部の業績管理, 原価管理・標準原価計算
第 6 回	活動基準原価計算(ABC)・活動基準原価管理(ABM)
第 7 回	原価企画
第 8 回	マネジメント・コントロール, バランス・スコアカード(BSC)・戦略マップ①
第 9 回	マネジメント・コントロール, バランス・スコアカード(BSC)・戦略マップ②
第 10 回	制約理論(TOC), スループット会計
第 11 回	アメーバ経営①
第 12 回	アメーバ経営②
第 13 回	品質管理会計
第 14 回	環境管理会計, マテリアルフローコスト会計(MFCA)
第 15 回	まとめ
第 16 回	筆記試験

到達目標

本授業にて講義する管理会計に関するひとつおりの知識が習得され、計算もできる

履修上の注意

講義には、あらかじめ配付する授業資料への予習が必要となり、計算機能だけの電卓持参も必要となる。

予習・復習

予習として次回範囲につき 30 分。復習として配付資料等の前回範囲につき 60 分がそれぞれ必要。

評価方法

定期試験が 60%、平常点が 40%で評価。平常点は受講態度、授業関与度合いを中心に評価。

テキスト

- ・教科書名：特になし（都度、授業内で資料を配付します）
- ・著者名：
- ・出版社名：
- ・出版年：